

基本型のサンプル指導案(生活単元学習)から見た主な書き方のポイント

学習指導要領には、各教科等において「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意することが示されており、知的障がい特別支援学校の各教科等についても、学びの連続性の視点から、同様に整理されている。また、「各教科等を合わせた指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である」とあり、各教科等を合わせた指導においても、三つの柱の観点で、育てたい資質・能力を整理し、評価につなげていく必要がある。

このことを踏まえ、ここでは各教科等の評価規準を取り入れた各教科等を合わせた指導のサンプル指導案を示している。このサンプル指導案での評価規準は次のように捉えている。

評価規準

- ・単元の目標の達成に向けて、各教科等で児童生徒につけたい力について、学習指導要領を基に3観点で記述する。
- ・各教科等を合わせた指導は幅広い内容を取り扱うのであらゆる教科等に関連することが多いが、目標として取り扱う教科等であるかどうかを十分に吟味する。
- ・児童生徒が複数在籍する場合、実態の幅広い特別支援学校や特別支援学級の状況から、児童生徒すべての「概ね満足できる」状況として表すことは難しいと思われる。よって、本単元を通して個々の児童生徒の観点別学習状況を評価するための質的なよりどころや視点を示す内容とする。

*丸数字は「生活単元学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する。
★は、それ以外の記入のポイントについて記述している。

小学部5年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時

★ 小中学校では指導者が複数の場合は、「T1、T2」「支援員」等と表すことが多い。

指導者 CT〇〇〇〇

AT①〇〇〇 AT②〇〇〇

場 所 〇〇教室、〇〇〇教室

- ① 学習のねらいや内容が一目で分かるよう明記する。
- ② 実際の生活や学習に関連した、児童生徒にとって分かりやすい単元名を設定する。

1 単元名 「くみわくわくまつりをしよう」

- ③ 学校教育目標とのつながりを考慮し、生活単元学習としてめざしたい姿として（例えば「見通し」「課題解決」「意欲」「かかわり」等の視点で）記述する。
- ④ 単元全体を通して、目指す児童生徒の姿について簡潔に記述する。

2 単元の目標

- ・お楽しみ会などの経験を活かし、見通しをもちながら活動する。
- ・みんながおまつりを楽しむことができるようにお店について考えたり工夫したりする。
- ・いろいろな友達や教師とかかわり、思いや考えを伝えあいながら活動する。

- ⑥ 単元で目標として取り扱う各教科等の学習集団としての各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。
- ⑦ 文末は「～しようとしている。」「～している。」等の児童生徒の状態を表す表現にする。
- ⑧ 学習指導要領に示された資質・能力を踏まえて、単元の活動に応じた表現で記述する。児童生徒の実態が幅広い集団の場合は、上の段階の資質・能力を基準として設定することも考えられる。
- ★ 自立活動については、個別の目標であるので、ここには記述しない。
- ★ 特別活動の評価規準を表す場合は、学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し作成した観点を記述する。（※小・中学校については、特別活動は合わせた指導として取り扱えないので注意する。）
- ★ 道徳については、この単元で目標として取り扱う内容項目について記述する。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
生活	・ お店担当の役割を果たすための知識や技能を身に付けている。 (カ：役割)	・ みんなが楽しめるおまつりになるように考えたり工夫したりしながら、進んで自分のお店の準備や店番の役割を果たそうとしている。 (カ：役割)	・ 1くみわくわくまつりの活動を通して、身近な人に自ら働きかけたり、進んで学習に取り組もうとしたりしている。
国語	・ お店担当として必要な言葉がけややりとりに気付いている。 (ア (ア))	・ お客さんに楽しんでもらえるような言葉がけややりとりを考えている。 (A聞くこと話すことウ) ・ 「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」等のあいさつをしている。 (A聞くこと話すことエ) ・ 相手に伝わるよう、声の大きさに気をつけて話している。 (A聞くこと、話すことオ) ・ おまつりに必要な事柄について、ちらしや表示に簡単な語句や文で表している。 (B書くことウ)	・ 積極的に友達や教師に言葉を通して伝え合おうとしている。
図画工作	・ お店の表示や看板を作りながら、材料のよさや特徴に気付いている。 ・ いろいろな材料や用具を用いて、工夫しながらお店の表示や看板などを作っている。 (A表現) [共通事項ア (ア)]	・ おまつりをイメージしながら、作りたなお店の表示や看板などを思い付いたり、思いに合った材料や色を選んだりしている。 (A表現) [共通事項ア (イ)]	・ 作りだすことの楽しさに気づき、進んでおまつりに必要な物づくりに取り組もうとしている。

* 自立活動の目標については、6－(2)に記載

* 「単元の評価規準」に替えて、このように表記する場合もある。

3 目標として取り扱う教科

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活	カ 役割	カ 役割	ウ
国語	ア (ア)	A 聞くこと、話すことウエオ B 書くことウ	ウ
図工	A 表現 [共通事項ア (ア)]	A 表現 [共通事項ア (イ)]	ウ

★ 段階目標ウを参考に作成するため、「ウ」と記入する。

4 単元について

- ⑨ 単元の目標や内容にかかわる児童生徒の実態を記述する。
★ 個別の指導計画や学級経営案等も踏まえて記述する。

(1) 児童観

本学級は、5年生5名で構成されている。知的障がい特別支援学校の小学部各教科1段階～3段階の内容を学習している。2学期になり、友達の様子を目で追ったり、休憩時間に友達を遊びに誘ったりと、学級の仲間を意識しながらかかわる姿が増えてきている。これまでに自分たちが経験した遊びを繰り返し行う姿が多いが、学習の中で行って楽しいと感じた遊びを休憩時間にも取り入れようとする姿も見られる。

表情や発声、タッチ等で自分の思いを表す児童や、経験したことや思ったことを言葉で伝える児童など、実態は様々であるが、それぞれが自分なりの手段で伝えようとする姿がある。書くことについては、経験したことなどを簡単な文で表す児童もいる。しかし、相手の思いを聞くこと、相手に伝わるように分かりやすく話したり伝えたりすること等にはまだ意識が十分でなく、うまくやりとりが続かないことも多い。

創作活動では、それぞれに好きな素材や色があり、経験したことを絵などで表すことが好きな児童が多い。図画工作では、筆やはさみ、のこぎり、かなづちなど様々な道具を扱う経験もしている。視覚認知の弱さや両手の協調動作に困難さがあり、道具の操作などに難しさがある児童もいる。

1学期には、生活単元学習でお楽しみ会の活動に取り組んだ。1回目は、自分たちのやりたい遊びに教師の提案した内容も加え、遊びに使う道具を作りながら、いくつかの遊びを行った。2回目は遊びコーナーを自分たちで担当して、参観日に保護者を招き一緒に楽しんだ。身近な人に思いを伝えながら、自分の仕事の役割を果たし「楽しかった。」と喜んでもらえたことが、達成感につながったようである。教師の支援を受けながらも、繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師とかかわりながら、自分の役割を意識して、目的のために必要なことを考えたり、準備したりすることが少しずつできつつある児童たちである。

- ⑫ 児童生徒にとって単元のもつ教育的意義や他教科、実生活等との関連を記述する。
⑬ 学習指導要領に示された各教科等の目標や内容との関連が記述してある。

(2) 教材観

本単元は、1学期に行ったお楽しみ会を発展させた内容である。参観日で保護者に喜んでもらえたことで、児童たちから、「もっとお客さんをよんでおまつりをしたい」との声があがった。児童たちは、例年地域の公民館まつりに参加している経験があり、おまつりに楽しいイメージをもっているようである。これらのことから、日頃かかわっている校内の友達や教師を招いて『おまつり』は、より児童たちの活動に対する目的意識が高まり、主体的に課題解決しながら学習に向かう姿が期待できる単元である。

おまつりは3つのお店（ボーリング屋さん、とんとんずもう屋さん、トランポリン屋さん）を設定する。このお店は、1学期のお楽しみ会でを行った遊びをもとに設定されているため、活動に見通しをもちやすく、自分の役割を意識しながら自らの力で必要なことを考え、準備していく姿が期待される。今回はそこに、「たくさんのお客さんに楽しんでもらうためにどうしたらいいか」という視点での工夫も加えることで、生活科の、より高学年らしく、自分の役割を果たそうとする資質・能力を育成することができるのではないかと考える。お店に必要なものを準備する活動では、図画工作科の意欲的に自分なりのお店のイメージをもちながら表現する資質・能力を育成できる。また、いろいろな人とかかわりを楽しみながら、これまでの国語科で学んだ「相手に伝わりやすい話し方」について体験を通して深めていくことができ、より相手を意識しながら話したり伝えたりしようとする資質・能力の育成も期待できると考えた。

加えて、いろいろな人とかかわるおまつりやチラシ配りの活動、お店に必要な物をつくる活動は児童の自立活動のねらいの達成にもつながる。

1学期の学習を発展させ、友達や教師と一緒に考えたおまつりを通じて、身近なたくさんの人に喜んでもらうことで、さらなる達成感や自信にもつなげることができる単元である。

(3) 指導観

- ⑭ 児童生徒の実態に応じて目標を達成するための支援、教材教具、学習形態、学習過程など、指導者の意図的な活動について記述する。
⑮ 単元全体の指導に合わせ、本時の指導について具体的に記述する。

見通しをもって主体的に活動に取り組むことができるように

毎時間の流れは決めておき、自分から活動に向かうことができるようにする。また、めあてと流れを掲示するとともにワークシートを用意することで、本時に行うことが明確に分かるようにする。教員は各グループにつくが、児童主体で活動を進めることができるように、基本的には見守り、必要に応じて実態に添った支援を行うようにする。

「お客さんが楽しめるおまつり」への気づきや工夫につながるように

第2次で実際に公民館まつりに参加することで、お客さんを招くおまつりへの具体的なイメージをもつことができるようにする。児童の活動内容としては、「おみせのひみつをさがろう」のミッションのもと、お客さんが楽しむためのお店の工夫をタブレットで撮影し、気づきをその後の活動に活かすことができるようにする。その際、「お店の人、なんて言ってる?」「お店の周りにはどんなものがあるかな?」等、お店の人の言動や掲示等に注目できるような言葉がけをする。

また、毎時間動画による振り返りを行うことで、友達や自分のよい点や改善点への気づきにつなぐことができるようにしたい。

いろいろな人とかかわり、伝え合う喜びを感じられるように

児童によっては、役割に応じた話し方について学習する中で一緒に「せりふカード」をつくり、必要に応じて活用できるようにする。また、おまつりに招く校内の教職員には、事前に児童の実態やねらいを情報共有しておき、前向きな言葉がけ、新たな気づきにつながる言葉がけをしてもらい、児童の意欲やより深い思考へ結びつけられるようにする。E児については、興味に合わせて遊び方を広げたり、担任が身近な教師や友達に本児との関わり方を伝え、好きなトランポリンをいろいろな人と楽しんだりできるようにする。

本時は、各グループで、本番を意識しながらお店の準備や練習を行う。できるだけ自分たちの力で準備できるよう児童主体で行うが、より当日のイメージをもって準備できるように、グループによってはATがお客さん役になり、気づきにつながる言葉がけをする。E児については、より本番に近いイメージで活動できるように、他学級のかかわりのある教員にお客さん役となってもらう。

- ⑯ 評価の計画は、学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。
⑰ 単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。
⑱ 各教科等の評価の観点を各時1～2つ程度に焦点化して記述する。
⑳ 自立活動については、児童生徒名と区分について記入する。ここでは特に目標として取り扱うものについてのみ記入する。そのため、児童生徒によっては目標に挙がらない場合もある。
㉑ 幅広い実態の児童生徒が複数在籍する場合は、「3単元の評価規準」と同様に、一部の児童生徒にかかわる教科や観点についても記入する。

5 単元の指導と評価の計画（全19時間 本時9、10／19時間）

次	時	主な学習内容	評価の計画			
			生活	国語	図工	自立活動
1	1、2	○「わくわくまつり」の計画を立てる ・1学期の活動を思い出しながら、内容や招待する人、役割を決める。	○思			
2	3、4	○お店の準備をする ・それぞれのお店に必要なものを考える。 ・お店担当としての言葉や台詞を教師と一緒にまとめる。	○知	○知		

	5、6	・公民館まつりに参加し、お客さんが楽しむための工夫（役割や表示、言葉がけなど）を探し記録する。	○知	○知		
	7、8	・グループで、お店に必要なものや表示を考え、作成する。			○知 思主	D (環・身)
	⑮ 児童生徒が実際にを行う活動を具体化した表現で記述されている。					
	⑨、⑩ (本時)	・グループでお店の準備や練習をする。 (お店担当としてのやりとり、道具の設置、表示や看板づくりなど)	○思	○思	○思	D (環・身)
3	11、12	○「わくわくまつり」の宣伝に行く ・おまつりのチラシづくりをする。 ・招待する教師や友達に、チラシを配りに行く。		○思 主		A (人・コ) E (心・コ)
	13、14	○リハーサルをする ・練習したことを思い出しながら、本番と同じようにお店の練習をする。 ・振り返りをする。	○知	○思		
4	15、16 17	○「わくわくまつり」をする ・校内の教師や友達を招き、各グループでお店の運営をする。	○知	○思		A (人・コ) E (心・コ)
5	18、19	○振り返りをする	○主	○主		

6 本時の学習

(1) 目標

- ・友達や教師とかかわりながら、お客さんを意識してお店の準備や練習をする。

②④ 本時の目標に関係する個々の実態を記述する。

(2) 個別の目標

- ②⑤ 単元指導計画と整合性がとれている。
- ②③ 「2 単元の目標」から、生活単元学習で目指したい姿としての視点で目標を設定する。

- ②⑤ 単元の評価規準（または取り扱う教科の学習指導要領に示される内容）と照らし合わせながら、教科等と目標は観点ごとに設定する。
- ②⑥ 本時で目指す姿を、できるだけ具体的な児童生徒の姿で記述する。
(「積極的に協力しながら準備することができる」→「考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備する」等)
- ★ 教科等と観点については、児童生徒それぞれで異なる場合がある。

児童名	実態	目標
A	・お店のルールやゲームの手順を理解している。 ・教師や友達に話をするのが好きで積極的に話しかけるが、自分の思いが先に立って、相手に話が伝わりにくいことがある。	・考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備しようとする。(生活) ・せりふカードを使い、お客さん役の教師の様子に合わせて、伝わりやすい声の大きさでお店の説明をする。(国語)
B	・目印を意識してボーリングのピンを設置したり、玉を拾って所定の位置に置いたりすることができる。	・お客さん役の教師がボーリングをしやすいうタイミングなどを考えながら、道具を設置しようとする。(生活)
C	・簡単な文を、ひらがなやカタカナで表すことができる。 ・お店のルールや、ゲームの手順については大まかに理解している。	・分かりやすいように伝える順序などを考え、ゲームの手順を簡単な文章で表す。(国語)

D	・文字を書いたり、絵を描いたりすることが好きである。すもう人形の絵を描くことにも、意欲的に取り組んだ。 ・視覚認知や両手協調動作の困難さがあり、道具の操作が難しいことがある。	・お客さんの視点から作りたい表示を思いついたり、思いに合った色や材料を選んだりする。 (図工) 自立・太い線を意識しながら、線に沿って切ることができるようにはさみの操作を調整する。 (環・身)
E	・好きなトランポリンの活動では、繰り返しの中で、写真カード等を手掛かりにしながら、自分で準備をしたり、担任にサインを出して一緒に跳んだりすることができつつある。	・お店担当の一連の流れ（チケットをもらう→タイマーをセットする→一緒に跳ぶ→メダルを渡す）に教師と一緒に取り組もうとする。 (生活)

(3) 展開 (別紙)

(4) 評価

① 各教科等の評価

- ・本時の目標が達成できたか。

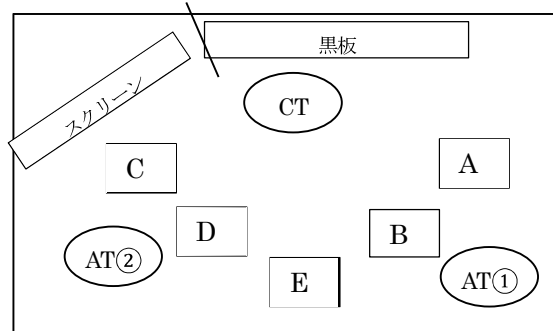
② 自立活動の評価

- ・本時の目標が達成できたか。
- ・目標の達成に向けてどのような変容があったか。

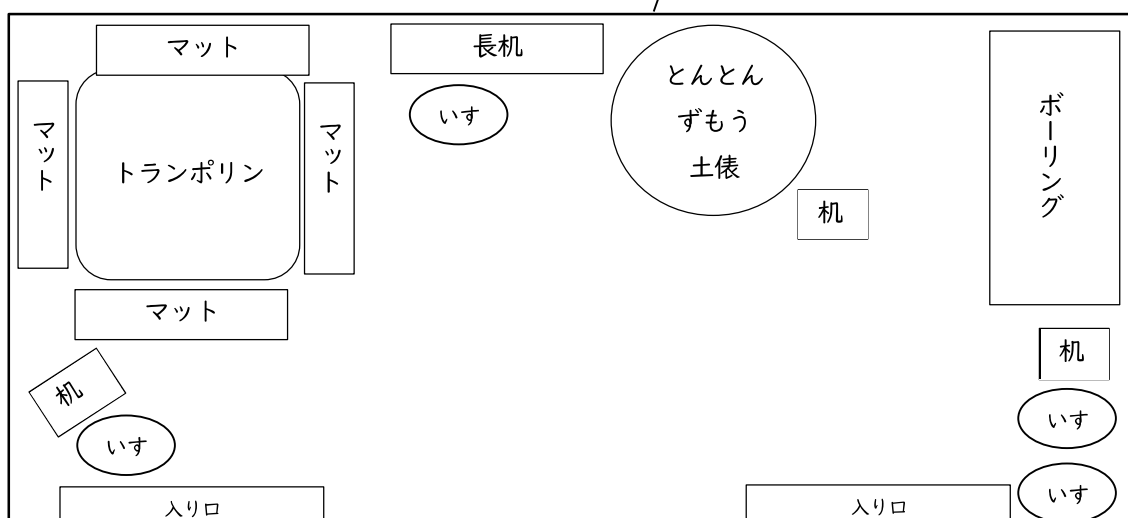
(5) 配置図

★ 活動の場の設置、児童生徒や教員の位置について、必要に応じて記入する。

〇〇教室



〇〇〇教室



(3) 展開

③文末は児童生徒が主体となる視点で記述する。
「～させる。」という表現は避ける。

③児童生徒の予想される反応に対する支援を記述する。
★児童生徒によって支援が異なる場合は、欄を分けて記入する。

時	学習活動	教師の支援（・）と評価（★）					準備物
		A	B	C	D	E	掲示
10分	○あいさつをする。（進行はAが行う。） ○今日の流れを確認する。 ・ワークシートに今日のめあてを書き込む。	・今日の流れが分かりやすいよう、掲示とワークシートを準備する。 ・進行表を用意し、いつでも活用できるようにする。					ワークシート
30分	○各グループでお店の準備をする。 【ボーリング屋さん（A・B）】 ・お店担当の練習をする。 - A：ボーリングの説明係 - B：道具係 【とんとんずもう屋さん（C・D）】 ・お店の説明（C）と看板（D）を作る。 【トランポリン屋さん（E）】 ・お店の準備をする。 ・お店の練習をする。 （チケットをもらう→タイマーをセットする→一緒に跳ぶ→メダルを渡す）	・本番を意識してできるよう、お客さん役になる。（AT①） ・意欲につながるよう、よかったところをしっかりと伝える。 ・必要に応じて、せりふカードを活用するよう、言葉がけをする。（AT①） ・必要に応じて、友達の様子に目が向くような言葉がけをする。	・やりにくいと感じたところを大きなアクションで伝えるようにする。（AT①）	・公民館まつりで撮った写真や動画を参考にすることができるよう、用意しておく。 ・お互いの作ったものを見合いながら作るよう言葉がけする。 ・適宜 CT がお客さん役になり、分かりにくかったところを伝えるようにする。	・友達の作品を参考にしやすいよう、見やすい位置に掲示しておく。 ・必要に応じて、大きさの目安を書き示すようにする。	・気持ちが向きにくいときには、違う場所でクールダウンし、落ち着いてから活動に向かえるようにする。（AT②） ・より当日をイメージしやすいよう、他学級の教員にお客さん役になってもらう。 ・必要に応じて教師から写真カードを提示する。（AT②）	タブレット お店で必要な道具 画用紙 ペン テープ
10分	○片付けをする。	・各グループで協力して片付けをすること、片付けが終わったら他のグループの手伝いもすることを言葉がけする。 ・片付ける場所が分かりやすいよう、目印をつける。					テレビ
10分	○振り返りをする。 ・ビデオを見て、自分や友達のがんばっていたところについて話す。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ○あいさつをする。	・CTはそれぞれのグループの様子を動画に撮っておき、児童全員で共有できるようにする。 ・動画を見て出てきた気付きに対して、CTが言語化したり称賛したりして、それぞれの自己評価へつなげることができるようにする。 ・自分のめあてにそって振り返ることができるよう、声がけをする。					

④それぞれの評価基準と評価方法を記述する。

★お客さん役の教師がボーリングをしやすいようタイミングなどを考えながら、道具を設置しようとしている。
【行動観察・ワークシート】

★わかりやすいように伝える順序などを考え、ゲームの手順を簡単な文章で表そうとする。
【行動観察・作品・ワークシート】

★お客さんの視点から作りたい表示を思いついたり、思いに合った色や材料を選んだりする。
【行動観察・作品・ワークシート】
★太い線を意識しながら、線に沿って切ることができるよう、はさみの操作を調整している。
【行動観察・作品】

★お店担当の一連の流れに教師と一緒に取り組もうとする。
【行動観察】

生活単元学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト

項目		内 容	チェック欄
単元名		①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。	
		②実際の生活や学習に関連した、児童生徒にとって分かりやすい単元名が設定されている。	
単元目標		③学校教育目標とのつながりを考慮し、生活単元学習としてめざしたい姿として記述してある。	
		④単元全体を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。	
		⑤複数の目標がある場合、主語（視点）が混在していない。	
単元の評価規準		⑥単元で目標として取り扱う各教科等の学習集団としての各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。	
		⑦文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。	
		⑧学習指導要領に示された資質・能力を踏まえて、単元の活動に応じた表現で記述してある。	
児童・生徒観		⑨単元の目標や内容にかかわる児童生徒の実態が記述してある。	
		⑩単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。	
		⑪学習に対しての学級集団の特徴について記述してある。	
教材観		⑫児童生徒の資質・能力を育成するためにとって単元や教材のもつ教育的意義や他教科、実生活等との関連が述べてある。	
		⑬学習指導要領に示された各教科等の目標や内容との関連が記述してある。	
指導観		⑭児童生徒の実態に応じて目標を達成するための支援、教材教具、学習形態、学習過程など、指導者の意図的な活動が記述してある。	
		⑮単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。	
単元（題材）の指導と評価の計画		⑯評価の計画は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。	
		⑰単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。	
		⑱単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現で記述されている。	
		⑲各教科等の評価の観点を、各時1～2つ程度に焦点化して記述してある。	
		⑳目標として取り扱う自立活動について、児童生徒名と区分が記述してある。	
		㉑幅広い実態の児童生徒が在籍する場合は、一部の児童生徒にかかわる教科等や観点についても記述してある。	
本時の目標		㉒単元指導計画と整合性が取れている。	
		㉓「2 単元の目標」から、生活単元学習でめざしたい姿としての視点で記述してある。	
個別の目標		㉔本時の目標に関係する個々の実態が記述してある。	
		㉕単元の評価規準と照らし合わせ、教科等を目標が観点ごとに記述してある。	
		㉖個別の目標は、本時でめざす姿ができるだけ具体的な児童生徒の姿で記述してある。	
本時の展開	学習活動	㉗見通し・振り返りが設定されている。	
		㉘各学習活動にかかる時間が記してある。	
		㉙文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。	
	教師の支援と評価	㉚児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。	
		㉛児童生徒によって支援が異なる場合は、欄を分けて記述してある。	
		㉜教材や資料の使用場面等が記述してある。	
		㉝評価規準と評価方法が記述してある。	
		㉞評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。	
		㉟文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようにする。」などの表現になっている。	
本時の評価		㊱自立活動の目標がある場合は、自立活動の評価についても記述してある。	